

第1学年1組 英語科学習指導案

日 時 平成26年10月21日(火)5校時

場 所 1年1組教室

指導者 JTE 岸 みず穂

ALT Ryan Witton

生 徒 男子15名 女14名 計29名

1 題材 Unit 7 サンフランシスコの学校 (New Horizon English Course Book 1)

2 目標

- (1) Who ...?や What time ...?、What + 名詞...?や Which is ..., A or B?などの疑問文や応答文、対話文などを用いて、積極的にコミュニケーションしようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 強勢、リズム、イントネーション、区切りなどの基本的な英語の音声に注意した音読ができる。また、Who ...?や What time ...?、What + 名詞...?や Which is ..., A or B?などの疑問文や応答文、対話文などを用いた英文を正しく言ったり、書いたりすることができる。
(表現の能力)
- (3) Who ...?や What time ...?、What + 名詞...?や Which is ..., A or B?などの疑問文や応答文、対話文などを用いた英文を読んだり、聞いたりして第三者が誰であるのか、現在時刻や季節、アメリカの学校生活の様子などを把握することができる。
(理解の能力)
- (4) Who ...?や What time ...?、What + 名詞...?や Which is ..., A or B?などの疑問文や応答文、対話文などを用いた英文を正しく運用することができる。また、時差やアメリカの学校生活について理解を深めることができる。
(言語や文化についての知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 題材について

本題材で扱われる文法事項は① Who ...?の文と応答、② What time ...?の文と応答、③ What + 名詞...?の文と応答、④ Which is ..., A or B?の文とその応答である。また、既習の How many...?の関連表現である How old...?や How long...? も初出となる。

上記は、指導要領における(3)言語材料の(エ)文法事項のdの疑問詞で始まるものにあたる。疑問文は、平叙文とは異なる語順になったり、動詞の形が変化したりすることが多いため、言語活動の中で何度も使用することで慣れさせることが重要である。

本題材は、ベッキーの祖母が孫のためにアメリカの中学校生活の様子を紹介するビデオを撮影する場面で構成されており、①ビデオ撮影の打ち合わせとその冒頭部分、②社会科の授業(時差)、③授業時間や選択教科、④昼食や放課後、週末の過ごし方が扱われている。異文化について興味を持ち、理解を深める好機になるとと思われる。

(2) 生徒について

本学級の生徒は、知的好奇心が旺盛な生徒の発言や質問が全体に波及し、英語に苦手意識を持つ生徒も、学習事項を定着させるための反復練習やドリルにしっかり取り組んでいる。ペア学習やグループ学習に積極的に取り組み、コミュニケーション活動にも意欲があり、自然に教え合う姿や、自分で調べて答えを見つけようとする姿が多い。

レディネステストの結果をまとめると、

①主語に合わせてbe動詞を選ぶことができる。98,5 %

②主語に合わせて一般動詞の正しい形を選ぶことができる。95,4 %

③ be 動詞の肯定文を疑問文や否定文に直すことが出来る。51 %

④ 一般動詞の肯定文を疑問文や否定文に直すことが出来る。41 %

be 動詞と一般動詞のルールを混同している生徒が多く、be 動詞の文に Do を用いたり、be 動詞と一般動詞を一緒に使ったりするなど肯定文を疑問文や否定文に書きかえる力はまだまだ不十分である。継続的に、計画的に復習を丁寧に進め、本題材の学習につなげていきたい。

(3) 指導について

考える力を育む教科指導改善研究会テーマ

「コミュニケーションを中核にした実践的な授業の工夫！」とのかかわり

日々の英語の授業を通して、

① 既習の学習事項や生活や体験の中から得た言語・非言語を活用し、相手と積極的にコミュニケーションできる生徒

② 自分の持っている知識や経験を仲間と共有し、英語で「聞く」「話す」「書く」「読む」ことができる生徒

を育成したいと考えている。

入門期の中学1年生が学んだ単語や使える文型は限られているが、言語活動が単なる繰り返し練習にならないように既習事項も積極的に使わなければならない内容を仕組んだり、未習語は日本語で補足して使用させたりしながら、学習の定着をはかり、語彙を増やし、表現の幅を広げる工夫をしていきたい。

本時では、生徒が誰もが知っている自分で選んだ人物(やキャラクター)を紹介する英文(ヒント)と写真(やイラスト)を準備し、相手と英問英答するクイズ形式を取り入れ、コミュニケーションに意欲的に主体的に取り組ませたい。

生徒がコミュニケーションに意欲的に取り組むための手だてとして、

① 生徒が自信を持ってに取り組むことができるようにスモールステップで学習を進める。

② 生徒が課題をイメージしやすいように導入時に ICT を活用し、モデルを示す。

③ ペアや次々に規則的に相手を変えるグループ学習の形態を取り入れ、教え合う場面を設定し、定着をはかる。

④ ティームティーチングでは役割分担や指導分担をはっきりさせて効果的に机間指導を行う。

一斉指導：JTE が教室全体を把握し、生徒の言語活動の活性化を図る。

ALT はより英語らしい表現ができるようモデルを示す。

個別指導：場面や学習内容に合わせて教室を二分(区域分割)したり、習熟度に分けて指導するなどして、より多くの生徒により多くのアドバイスができるように指導をすすめる。

⑤ 授業内容とリンクした家庭学習課題を準備し、基礎基本の定着を図る。

4 指導計画 (全12時間)

時	学習活動 (◎言語活動)	評価規準 【評価の観点(評価方法)】
1 2	・ 新出語句の発音練習と意味の確認 ・ 本文の音読練習 ・ 本文の内容理解 (打ち合わせ・あいさつ・自己紹介) ・ Who ...? の文と応答	・ ノートを活用して単語の意味を理解し、英語らしく音読できる。【知(観察)】 ・ 英文の内容を正しく読み取ることができる。【理(観察)】 ・ Who ...? の文と応答の意味と用法を理解し、運用できる。 【知(ワークシート記入の様子)】
3	◎ 英文でヒントを作る活動 ・ 写真やイラストなどの準備	・ 第三者を英語で表すことが出来る。 【表(ワークシート記入の様子)】

	◎質問台本を作る活動	Who's this? と Who's ~? を使い分けることができる。【表(ワークシート記入の様子)】
4 本時	◎ Who ...? の文や Is...?, Does ...? の疑問文を用いて、情報を集め、誰なのかを推測し、答えを見つける活動 ◎集めた情報を英文でまとめる活動	- Who ...? の文や Is...?, Does ...? の疑問文を用いて質問したり、答えたりしようとする。【関(観察)】 - 既習事項を用いて英文を書くことができる。【表(ワークシート記入の様子)】
5	- 発表テスト(音読→QA) (・ワークシート)	前時にまとめた英文を読み、英語の質問に英語で答えることができる。【表・理(個別テスト)】
6 7	- 新出語句の発音練習と意味の確認 - 本文の音読練習 - 本文の内容理解 (時差や季節の違い) - What time ...? の文とその応答 ◎時刻や季節を聞き取る活動	- ノートを活用して単語の意味を理解し、英語らしく音読できる。【知(観察)】 - 英文の内容を正しく読み取ることができる。【理(観察)】 - What time ...? の文とその応答の意味と用法を理解し、運用できる。【知(ワークシート記入の様子)】 - 時刻や季節を正しく聞き取ることが出来る。【理(観察)】
8 9	- 新出語句の発音練習と意味の確認 - 本文の音読練習 - 本文の内容理解 (アメリカの学校生活/時間・選択制) - What + 名詞 ...? の文とその応答 ◎ What + 名詞 ...? の文と応答を用いて好きなものを質問したり、答えたりする活動	- ノートを活用して単語の意味を理解し、英語らしく音読できる。【知(観察)】 - 英文の内容を正しく読み取ることができる。【理(観察)】 - What + 名詞 ...? の文とその応答の意味と用法を理解し、運用できる。【知(ワークシート記入の様子)】 - 好きなものについて質問したり、答えたりしようとする。【関(観察)】 - 好きなものについて英文で書くことができる。【表(ワークシート記入の様子)】
10 11	- 新出語句の発音練習と意味の確認 - 本文の音読練習 - 本文の内容理解 (アメリカの学校生活/過ごし方) - Which is ..., A or B? の文とその応答 ◎ Which is ..., A or B? の文とその応答を用いて、どちらが好きか質問したり答えたりする活動	- 予習ページを活用して単語の意味を理解し、英語らしく音読できる。【知(観察)】 - 英文の内容を正しく読み取ることができる。【理(観察)】 - Which is ..., A or B? の文と応答の意味と用法を理解し、運用できる。【知(ワークシート記入の様子)】 - どちらが好きか質問したり、答えたりしようとする。【関(観察)】 - どちらが好きか英文で書くことができる。【表(ワークシート記入の様子)】
12	- U 7 のまとめ - リスニングシート - プリント - ワーク	- 英文の概要を聞き取ることができる。【理(リスニングシート記入の様子)】 - プリントやワークに正しく記入することができる。【理(記入の様子)】

5. 本時の指導

(1) 題材 Who...? の文と応答のまとめ(第三者について表す文の復習)

(2) 目標

- ① Who...? の文や Is...?, Does...? を用いて積極的に質問したり、答えたりしようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ② Who ...? の文や Is...?, Does...? を用いて情報を交換し、相手から得た情報を英文でまとめることができる。(表現)

(3) 指導過程

C→B: つまづきに対する手だて B→A: 更に伸ばす手だて

時間	学習活動 ○主な発問・指示	指導上の留意点 △予想される生徒の反応
導入 15分	1. あいさつ 2. Q+A(練習) 3. Who...?の文と応答の復習	- 大きな声であいさつさせる。 - 時間を区切り、協力して取り組ませる。 - ICTを活用し、ALTと既習事項を復習する。 - 生徒の様子を見ながら内容や量を調整する。
展開 前半 10分	4. モデル対話を視聴する 課題: Who ...?の文や Is...?, Does ...? の疑問文を用いて質問しクイズの答えを見つけましょう。 【活動①】 5. 質問し、推測し、答えを見つける活動(ペア) ○Ask your partner to guess "who."	- ICTを活用し、生徒に活動のイメージを持たせる。 - JTEとALTが、教室を二分し、指導する。 △活動がなかなか進まない。 - C→B 英語の援助や活動をうながす。 △活動が軌道にのっている。 - B→A 英語らしい発話を励ます。
	評価① Who ...?の文や Is...?, Does ...? の疑問文を用いてペアに質問したり答えたりできたか。(表現)	
展開 後半 20分	課題: Who ...?の文や Is...?, Does ...? の疑問文を用いて質問しクイズの答えをつけましょう。 【活動②】 6. 質問し、推測し、答えを見つける活動(グループ) ○Ask your friends to guess "who."	- JTEは全体を把握し、活動がなかなか進まない生徒の英語を援助し、活動をうながす。 - ALTは言語活動を活性化させる。
	評価② Who ...?の文や Does ...? の疑問文を用いて多くの級友に質問したり答えたりできたか。(コミュニケーションに対する関心・意欲・態度)	
	課題: 友達から集めた情報を英文でまとめましょう。	
	【活動③】 7. 集めた情報を第三者紹介文にまとめる活動(一斉) ○Write the information you got from your friends.	- JTEとALTが、教室を二分し、活動がスムーズに進むように指導する。 △英文がなかなか書けない。 - C→B 文型や単語についてヒントを与える。 △英文をすらすら書いている。 - B→A 英文を複数書くよう促す。
	評価③ 既習事項を用いて英文を書くことできたか。(表現)	
まとめ 5分	8. まとめ ○Ask Ryan to guess "who." 9. あいさつ	- 抽出生徒にALTが準備したやや難しい問題に挑戦させ、その意欲や良い点を賞賛する。 - 大きな声であいさつさせる。

第3学年1組英語科学習指導案

指導者 横澤 聡一
Lethin Lynn
Farrell Gordon

1 単元 Speaking 2 食事（レストランで）（Sunshine English Course 3）

2 目標

- ・自分で選んだレストランに行き、注文することに興味を持ち、積極的に友達と問答しようとすることができる。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・既習事項を用いて、自分が行きたいレストランへ行き、レストランで自分が食べたいものを注文することができる。
【表現の能力】
- ・目的地への道順の説明を理解したり、レストランでの注文のやりとりを理解したりすることができる。
【理解の能力】
- ・英語で書かれたメニューの読み方や、調理具合の選択の仕方、さらには注文する際の順序などの点で日本と違うことについて知ることができる。
【言語や文化についての知識・理解】

3 指導にあたって

（1）題材について

本単元は、海外旅行等で必要となる、レストランで料理を注文する際の対話を扱っている。May I take your order?や How would you like ～?等の表現が使われている。レストランでの会話は典型的な表現が多く、店員からの質問はかなりスピードが速いため、定型表現を正しく身につけて運用できるようにしていきたい。また、道順を尋ねる表現については既習事項であるが、海外では必ず必要になってくるものと考え、レストランで料理を注文する対話と併せて扱っていきたいと考えた。

本時では、海外旅行に行った際に、自分達が行きたいレストランへの道を尋ねて、そのレストランで食事を注文する、という設定にした。前時までの既習事項を活用しながら、ペア活動やグループ活動など形態を変えたり、ALTに参加してもらうことにより意欲的に活動できるような場面設定を工夫したりしていきたい。

（2）生徒について

授業では、挙手・発言も比較的多く、全般的に一生懸命取り組む姿が見られる。学習内容や課題をしっかり確認したり、基礎基本を繰り返し行うことにより、自信を持って発言できるよう支援したい。ペア活動については、ウォーミングアップで毎時間行ってきたが、グループ活動、インタビュー活動については活動する機会が少なかった。そのためにスムーズに、活動ができるか不安であるが、道案内やレストランでの注文において必要感、必然性のある場面設定をすることで、男女問わず活発にインタビュー活動ができるように進めていきたい。

また、英語を苦手としている生徒も多くおり、定着の不十分なところもある。基礎基本となるところは繰り返し行い、机間指導などでも支援していきたい。

（3）ICTについて

英語科では授業の中で継続して電子黒板やデジタル教科書を使用している。文章理解やパターンプラクティスにおいて効率的に活動を進めることができるとともに、課題提示では生徒の興味関心を引くことにもつながると考える。

本時では、特に復習や本文の音読にこの機器を用いて、テンポよく短時間で行うことができるようにしたいと考えた。

◎実践していること

使用機器	使用場面・方法	ねらい	生徒への利点
デジタル教科書 ＋ 電子黒板	①教科書本文の読み取り 本文を拡大提示し、文法事項を書き込みながら説明・問題演習をする。	重要ポイントをしっかりと把握して読み取りや演習をするため。	書き込む箇所や内容を短時間で明確に把握できる。
	②フラッシュカード 新出単語の練習 音声付／音声なし	単語練習と定着のため。	ネイティブの音声と文字を一緒にインプットできる。
	③教科書本文のリスニング ピクチャーカードを提示し、内容を聞きとる。	絵の情報をヒントにしてまとまった文章の内容を理解できるようにする。	ネイティブの音声と絵を一緒にインプットできる。 アニメーションが付いている部分もあり、意欲の喚起につながる。
パソコン 作成ファイル ＋ 電子黒板	④課題等の提示 活動の前に画像などを大画面で表示する。	生徒の興味を引き付けて活動を行う。	興味を持って活動につなげられる。
	⑤口頭練習 パワーポイントで基本文練習のファイルを作成し、提示／消去しながら口頭練習を行う。	文の提示の仕方を変えながらテンポよく何度も練習し、ポイントを意識した口頭練習をする。	ポイントを意識しながらテンポ良く何度も練習できる。また、文の提示の変化が素早く行われることで抵抗なく徐々に暗記につなげることができる。
	⑥問題演習 PC で作成した練習問題を電子黒板に拡大提示し、それに書き込みながら問題演習を行う。	正しくポイントを理解して問題練習を行う。	電子黒板に書かれたものと同じようにメモを取ることができ、ポイントが明確でわかりやすい。安心感がある。
	⑦重要ポイントの復習 フラッシュカードのように語句だけをテンポ良く提示し、意味を確認する。	短時間で文法事項を復習する。	短時間で重要ポイントの復習ができる。
インター ネット ＋ 電子黒板	⑧会話練習等での活動方法の提示 コミュニケーション活動を行う際の生徒の動きや方法を図で提示するなどして明確に伝える。	活動の方法をわかりやすく提示することで、活動のための時間を十分にする。	視覚的に情報を得ることができると、自分の動きが理解しやすく、安心して活動に取り組める。時間が十分に取れるようになり、学習内容の定着につながる。
	⑨関連題材の提示と説明 教科書に出てくる人物や画像などをインターネットから取り込み、提示する。	様々な人物や画像をより鮮明にわかりやすく提示する。	興味を持って、新文法の練習や本文の内容理解の手助けとなる。

4 研究会テーマとの関わり

(1) 考える力を育む教科指導改善研究会テーマ

コミュニケーションを中核にした実践的な授業の工夫！

(2) テーマにせまるための手立て

視 点	手立て(◎…本時の中で ○…単元の中で 二重下線…言語活動)
①学び合いのねらいと視点の 明確化 視点①	○どの活動でも協力しながら作業を進めるために、ペアで活動する時の目的や約束を確認する。 ◎ペアや全体で活発なコミュニケーション活動を行うために、授業の最初に「Communication Drill」に取り組ませる。 ◎導入の段階でモデルを提示し活動に見通しを持たせる。
②自己選択や自己決定の場を 取り入れた指導過程の工夫 視点②	◎ペアで練習する際に、「お助けマン Card」を手がかりに、自分に合った練習を行う。 <u>自己決定</u> ◎自分が行きたいレストランや注文したい料理を選び、会話を進める。 <u>自己決定</u>
③交流を活発にするための形態・環境構成・支援の工夫 視点③	◎ペアやグループ活動に変化を持たせて、繰り返し練習を行うことで自信を持って、コミュニケーション活動に取り組むことができるようにする。 <u>コミュニケーション</u>
④学び合いのふり返りや自己 評価・相互評価の場の設定 視点④	◎ペアで協力し、道順を尋ねたり、レストランで注文したりできたか、振り返りの時に項目に従って評価させる。

5、指導計画（3時間扱い 本時3時間目）

学習活動	目指す生徒の姿（観点）
1 本文の内容を理解する	1 ・ レストランでの食事場面に特有の表現である May I take your order?や How would you like ~?などを理解することができる。
2 道案内について 復習する。	1 ・ Could you tell me the way ~?や Turn left at the second traffic Light. などを用いて道を探ねることができる。
3 学習1と2の 活動をする。(まとめ)	1 ・ 既習事項を用いながら、自分の行きたいレストランまでの道順を探ね、レストランで注文することができる。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

既習事項を用いながら、自分の行きたいレストランまでの道順を探ね、レストランで注文することができる。

(2) 目標行動

- ①既習の学習内容を用いて、「Communication Drill」を積極的に問答することができる。
- ②モデルを見て、どんなことを話しているかを聞き取り、本時のねらいをつかむことができる。
- ③全体やペア、4人グループで対話することができる。
- ④ペアで協力しながら、道を探ねたり、注文したりすることができる。
- ⑤ALTと実際に会話することができているか。

(時間) 目標 行動	主 な 学 習 活 動 主な発問・指示 (○) 予想される反応 (・)	主な支援と留意点 (・) 評価 (☆) 自己決定 コミュニケーション 言語活動
	1、Greeting ○Good morning, everyone. ・ Good morning, Mr.Yokosawa.	
(5) ①	2、Warm up ○Let's begin "Commnuication Drill" . ・ Could you tell me the way to the post office? ・ Go down this street. ・ ・	☆既習の英文を積極的に正しく答えられているか。 言語活動 ペアでコミュニケーション ドリルを用いて、既習事項 の復習をする。
(10) ②	3、モデルを見て、どんな会話をしているか聞き取る。 ○We will talk about something. What did we talk about? Please listen carefully. 《asking the way》 A: Excuse me. Could you tell me the way to the "ABC restaurant"? B: Sure. Go down this street and turn left at the second light. A: Turn left at the second light? B: That's right. Then walk to the first light and you'll find the "ABC restaurant" on your right. A: How long will it take? B: It will take about five minutes. A: Thank you. 《At the restaurant》 A: May I take your order? B: Yes, please. I'll have the New York steak, a baked potato and a green. A: How would you like your steak? B: Medium, please. A: O.K. What kind of dressing would you like on your salad? B: Thousand Island, please. A: All right. Anything else? B: No, that's all. Thank you.	・ ALT と JET の会話により、臨場感を持たせると共に、本時の活動の見通しを持たせる。 視点① ・ 道案内とレストランの場面を区切り、内容を理解しやすいようにする。
(3)	4、本時のめあてを知る。 自分が行きたいレストランへの道を尋ね、レストランで注文しよう！	☆最終的な本時のめあてをつかむことができたか。

(9) ③	5、Review ○重要表現の復習を行う。 ○Let's review some sentences.	・電子黒板を用いて視覚的に、道案内や食事の注文に必要な表現について復習する。
	6、Practice ○自分のカードの読み方をペアやグループで練習する。 ・ペアやグループで対話のやり取りをする。 A○⇄○ $\updownarrow$ B○⇄○	☆ペアやグループで協力して読み方を練習しているか。 ・「お助けマン Card」を活用し練習する。 視点②、③ 自己決定
(18) ④	7、Communicative activities ○実際に、道を尋ね、自分の行きたいレストランに行き、食事を注文する。 ・ペアで道順を尋ねたり、レストランでの注文をしたりする。	・ルールを確認し、活動に取り組めるようにする。 視点②、③ 自己決定 コミュニケーション 言語活動 ペアで道を尋ねたり、レストランで注文したりする。 ☆レストランへの道を尋ね、しっかりと注文できたか。
(5)	8、Consolidation ○対話したことを発表しよう。 ○今日のまとめをしよう。 ○今日の授業の評価をしよう。	☆ALT と実際に会話することができたか。
	9、Greeting ○Good bye , everyone. ・ Good bye , Mr.Yokosawa.	

《成果と課題》

- 授業のほとんどが英語で展開され、英語活動を成立させるためのツールである単語力・文法・型になっている会話などが充実した授業であった。
- 基礎・基本の定着のために日頃から学習訓練を積み重ねていることが、生徒の自信につながっている。
- 必要感のある魅力的な題材、信号やメニューなど臨場感のあるリアルな空間づくりが、生徒の学習意欲につながっていた。
- コミュニケーションドリルでのICTの効果的な活用が、リズムカルな授業を生み出し、生徒の意欲を引き出していた。
- 学習リーダーの活躍が見られた。教える側になることで、より力を伸ばすことができている。
- 学習レベルCの生徒をBに伸ばす工夫とBの生徒をAに伸ばす工夫がなされていた。
→個に応じた支援として、“お助けマンカード”などの工夫が効果的であった。
- 理解に時間がかかる生徒にも分かりやすいユニバーサルデザインを意識した掲示物を工夫する。
- インタラクティブ（双方向）の情報交換について、他教科での活用も検討する。
- コミュニケーションの活動場面においては、説明のしかたや時間配分の吟味が必要である。

Class _____ Name _____

《asking the way》 道案内

A: Excuse me. Could you tell me the way to the "ABC restaurant"?

B: Sure. Go down this street and turn left at the second traffic light.

A: Turn left at the second traffic light?

B: That's right. Then walk to the first traffic light

and you'll find the "ABC restaurant" on your right.

A: How long will it take?

B: You will take about five minutes.

A: Thank you.

《At the restaurant》 レストランで

A: May I take your order?

B: Yes, please. I'll have the New York steak,
a baked potato and a green salad.

A: How would you like your steak?

B: Medium, please.

A: O.K. What kind of dressing would you like on your salad?

B: Thousand Island, please.

A: All right. Anything else?

B: No, that's all. Thank you.

お助けナマン Card



3年__組 名前_____

Gold Card

《道案内》

A: OOレストランへの道を尋ねる。

B: 道を教える。

A: 確認する。

B: 道の続きを教える。

A: 所要時間を聞く。

B: 所要時間を尋ねる。

A: お礼を言う。

《レストランで》

A: 注文をとる。

B: 食べたいものを頼む。

A: ステーキの焼き具合を聞く。

B: 焼き具合をお願いする。

A: サラダのドレッシングの種類を聞く。

B: 好みのドレッシングを頼む。

A: 他に注文をとる。

B: お礼を言う。

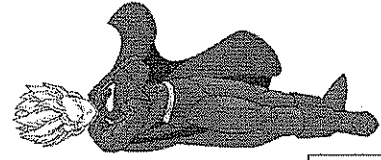
使える表現

☆ I would like to have the tomato soup. トマトスープをいただきたいのですが。

☆ Can I have French fries, please? フライドポテトをいただけませんか。

リクエスト

☆ What do you recommend today? 今日のおすすめは何ですか。





お助けナマン Card

3年 組 名前 _____

Silver card

《道案内》

A: すみません。〇〇レストランへ行く方法を教えてください。

B: もちろんです。この通りをまっすぐに行き、
そして、〇番目の信号を右（左）に曲がってください。

A: 〇番目の信号を右（左）ですか？

B: そのとおりです。それから、〇番目の信号まで歩いて行くと、
右（左）側に、〇〇レストランが見えるでしょう。

A: どのくらいの時間がかかりますか？

B: およそ〇分かかります。

A: ありがとうございます。

《レストランで》

A: 注文をおうけしましょうか。

B: はい、お願いします。_____と_____をお願いします。

A: ステーキの焼き具合はどうしますか。

B: ミディアム（レア、ウェルダン）をお願いします。

A: サラダには、どんなドレッシングがよろしいですか。

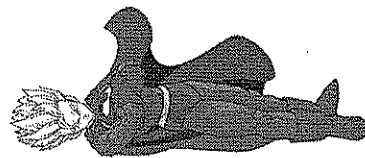
B: _____をお願いします。

A: わかりました。他にはいかがですか。

B: いいえ、それで結構です。ありがとうございます。

- ☆ I would like to have the tomato soup. トマトスープをいただきたいのですが。
- ☆ Can I have French fries, please? フライドポテトをいただけませんか。
- ☆ What do you recommend today? 今日のおすすめは何ですか。

リヨメン



お助けナマン Card

3年 組 名前 _____

Bronze card

《道案内》

A: すみません。
〇〇レストランへ行く方法を教えてください。

Excuse me.

B: もちろんです。この通りをまっすぐに行き、
そして、〇番目の信号を右（左）に曲がってください。

A: 〇番目の信号を右（左）ですか？
Sure. Go down this street and turn left at the second traffic light.

Turn left at the second traffic light?

B: そのとおりです。それから、〇番目の信号まで歩いて行くと、
右（左）側に、〇〇レストランが見えるでしょう。

That's right. Then walk to the first traffic light
and you'll find the "ABC restaurant" on your right.

A: どのくらいの時間がかかりますか？

B: およそ〇分かかります。

A: ありがとうございます。

《レストラン》

A: 注文をおうけしましょうか。

B: はい、お願いします。_____と_____をお願いします。
May I take your order?
Yes, please. I'll have ~, ~ and ~.

A: ステーキの焼き具合はどうしますか？

B: ミディアム（レア、ウェルダン）をお願いします。

A: サラダには、どんなドレッシングがよろしいですか？

B: _____をお願いします。
O.K. What kind of dressing would you like on your salad?

_____, please.

A: わかりました。他にはいかがですか。

All right. Anything else?

B: いいえ、それで結構です。ありがとうございます。

No, that's all. Thank you.



Menu

Salads

グリーンサラダ
Green Salad



ミックスサラダ
Mixed Salad



シーフードサラダ
Seafood Salad



Soup

オニオンスープ
Onion Soup



トマトスープ
Tomato Soup



野菜スープ
Vegetable Soup



Main Dishes

ローストチキン
Roast Chicken



サーモンのグリル
Grilled Salmon



ポークカレー
Pork Curry



ニューヨークステーキ
New York Steak



Sides

フライドポテト
French Fries



野菜いため
Fried Vegetables



ベークドポテト
Baked Potato



Rare



Medium



Well done

Menu

Dressings

サウザンアイランド
Thousand Island



イタリアン
Italian



フレンチ
French



Drinks

オレンジ
Orange Juice



アップル
Apple Juice



ジンジャエール
Ginger Ale



コーク
Coke



English Communication Drill 1

3年 組 番 名前

	1	2	3	4	5	6	7	8	日本語
目 付									
1									郵便局への行き方を教えていただけませんか。
2									この通りをまっすぐ行ってください。
3									2つめの信号を右に曲がってください。
4									その通りです。
5									それから、最初の信号まで歩いて行きなさい。
6									あなたは、右側に駅が見えるでしょう。
7									どのくらいわかりますか。
8									えーと、約5分かかりますでしょう。
9									注文をお受けしましょうか。
10									ニューヨークステーキと、ベークドポテト、グリーンサラダをお願いします。
11									ステーキの焼き具合はどうしましょうか。
12									ふつうで(生焼けで、しつかり焼いて)、お願いします。
13									サラダにはどんなドレッシングがよろしいですか？
14									わかりました。他にはいかがですか？
15									いいえ、それで結構です。ありがとうございます。

※ は、自分で単語を考えてみよう。

評価：◎すらすら読める ○少し考えながら読める
△読めない単語がいくつかある ×全く読めない
(または時間内に読めない)

◎の数：16～12(A) 11～8(B) 7～5(C) 4～0(D)

Speaking 2 食事(レストランで)

Grade 3 Class _____ Name _____

◇真紀がレストランで料理を注文しています。対話を聞いて、ペアで練習しましょう。

	English	Japanese
店員	Hello. May I take your order?	こんにちは。注文をお受けしましょうか。
真紀	Yes, please. I'll have the New York steak with a baked potato and a green salad.	はい、お願いします。ニューヨークステーキと、ベークドポテト、グリーンサラダをお願いします。
店員	How would you like your steak?	ステーキの焼き具合はどうしましょうか。
真紀	Medium, please.	ミディアムをお願いします。
店員	OK. What kind of dressing would you like on your salad?	はい。 サラダには何アドレッシングがよろしいですか？
真紀	Thousand Island, please.	ザウザンド アイランドをお願いします。
店員	All right. Anything else?	わかりました。他にはいかがですか？
真紀	No, that's all. Thank you.	いいえ、それで結構です。ありがとうございます。

第5学年 外国語活動学習指導案

飯豊町立添川小学校

HRT 熱海千佳子

ALT トレーシー・トンプソン

1 単元名 好きな色や形 (Hi friends! Lesson5 what do you like?)

2 目標

- (1) 好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
- (2) 色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむことができる。
- (3) 日本語と英語の音の違いに気づくことができる。

3 指導について

(1) 学習指導要領との関わり

内容1ー(1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること

1ー(2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること

1ー(3) 言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知ること

2ー(1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉のおもしろさや豊かさに気づく

(2) 単元について

本校の外国語活動は、「ALTと話す」「ALTの話す言語を聞く」を指導の中心にして、Hi friends!1を活用した授業を組んでいる。

この単元では、色や形を表す言葉を使って、好きなものは何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみながら、外国語を話したり聞いたりすることをねらいとしている。この単元で扱う色や形を表す言い方は、導入で教材提示する10枚のTシャツをもとに、児童が興味をもって取り組むことができるように構成されている。自分の好みのTシャツを選んだり好きな色や形を組み合わせることでTシャツを作ったりする活動を展開することで、コミュニケーションする楽しさを実感できると考える。また、好きなものをインタビューし合うことで、積極的に外国語を聞いたり話したりすることができると思う。

(3) 児童について (男子5名 女子4名 計9名)

英語でのあいさつや、導入時のゲームに意欲的に取り組んでいる。毎週1時間の外国語活動では、ALTの指示を聞いて理解しようと努めたり声を出して発話したりと、とても真面目で真剣である。一方で、自分から進んで話すことに、苦手意識をもつ児童が多い。インタビュー形式のゲームでは、なかなか始められず、友達が来てくれるのを待つ児童もいる。少人数のよさを活かして、ALTとの関わり方やゲームの進め方を工夫しながら、積極的なコミュニケーションへのステップとしたい。

4 研究テーマとの関わり

研究テーマ

コミュニケーションを中核にした実践的な授業の工夫！

(1) 対話を発する体験活動の場

- ・対話を発する場面を意図的に設定するために、「友達に好きなTシャツを作ろう」と活動場면을提示する。好みの色や形の英語表現を繰り返し発話し、慣れ親しむ。
- ・ALTとHRTで、会話表現 [What color do you like?] [I like red]を紹介し、ペアやグループで繰り返し発話する。
- ・さらに、その場にあったあいさつやお礼の表現も発話させたい。[Hello. Here you are.] [Thank you.]

(2) 学習形態

- ・インタビュー形式で、自分から進んで発話できるようにするために、ペアでの繰り返し発話で表現に慣れ親しませる。また、必ずALTと対話する時間を設ける。
- ・対話表現や言葉に慣れ親しむ活動では、一人の時間を設けず、必ずペアで行うようにする。お互いに学習内容を確認し合うことができ、安心して活動に参加でき、伝え合えるようになると思う。
- ・ペアや3人グループの練習の様子や、好例となる具体的な姿を紹介し、気持ちの良いコミュニケーションとは、どのようなものか考えさせる。次の活動の質を高めるきっかけになるようにしたい。

5 指導計画（4時間）

時	目 標	活 動 内 容
1	日本語と英語の音の違いに気づき、色や形の言い方を知る。	・色や形の言い方を知る。 white,red,green,yellow,blue,brown,pink,black,purple, light-blue,orange/star,triangle,heart,circle,diamond, Soccerplayer,dogs,apples ・テキストを見ながら、どのTシャツを説明しているか当てっこゲームをする。 ①ポインティングゲーム②What' s this?③リスニングゲーム
2	色や形の言い方に慣れ親しみ、好きなものは何か尋ねる表現を知る。	・好きな色や形を尋ねたり答えたりする言い方に慣れる。 A:What color(shape) do you like? B:I like (color/shape). ①インタビューゲーム②ミッシングゲーム
3 本 時	色や形の言い方や好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。	・友達にオリジナルTシャツを作る。 ・友達に、好きな色や形などを尋ねながらTシャツを作る。
4	友達に好きなものについて積極的に話したり尋ねたりする。	・自分のTシャツの色や形を説明する。 ・友達に好きなものをインタビューする。

6 本時の指導

(1) 目標

友達にオリジナルのTシャツを作るために、色・形の言い方や好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。

(2) 展開

時間	学習活動と内容			支援及び留意点（・） 評価（◎）
	児童	H R T	A L T	
1	1 あいさつ			・その日の状況に合わせて対応、対話ができるようにする。 ・丸くなり、色・形の単語を言いながら、ぬいぐるみをパスしていく。 ・ピクチャーカードを提示しながら慣れ親しませる。
	Hello everyone. How are you? How is the weather? What's the date today?			
5	2 サークルゲームをする。	Let's try circle game!	一緒にやる	
10	3 色や形を言う ・カードを見ながら発話する。 ・対話文の発話をする。	Let's review!	Do you remember color and shape?	・A L TとH R Tで、対話文を表現しながらTシャツを作っていく。 ・Tシャツが書かれた学習プリントを配る。 →対話の中で、難しくて困った表現を日本語で表してもよい。 →色や形は必ず英語で発話する。 →ペアでできたら、A L Tや他の友達と交流する。
		What color do you like? I like red		
25	4 めあてを知る	友達にオリジナルTシャツを作ろう		
	5 デモンストレーションを見る。 ・AとBに分かれて発話する。	A:Hello! B,What color do you like? B:I like red. A:What shape do you like? B:I like star. A:How many stars? B:Five,please. A:OK.Your T-shirt,here you are. B:Thank you.		◎色や形の言い方、好きなものは何かを尋ねたり答えたりできたか。 ・全員発表。よい気づきや感想をほめる。
3	7 できたTシャツを紹介する。	・全員分を紹介する。		
1	8 ふりかえり	・賞賛する。	・賞賛する。	
	9 あいさつ Thank you,Tracy and Chikako.	You are welcome. See you	You are welcome. See you	